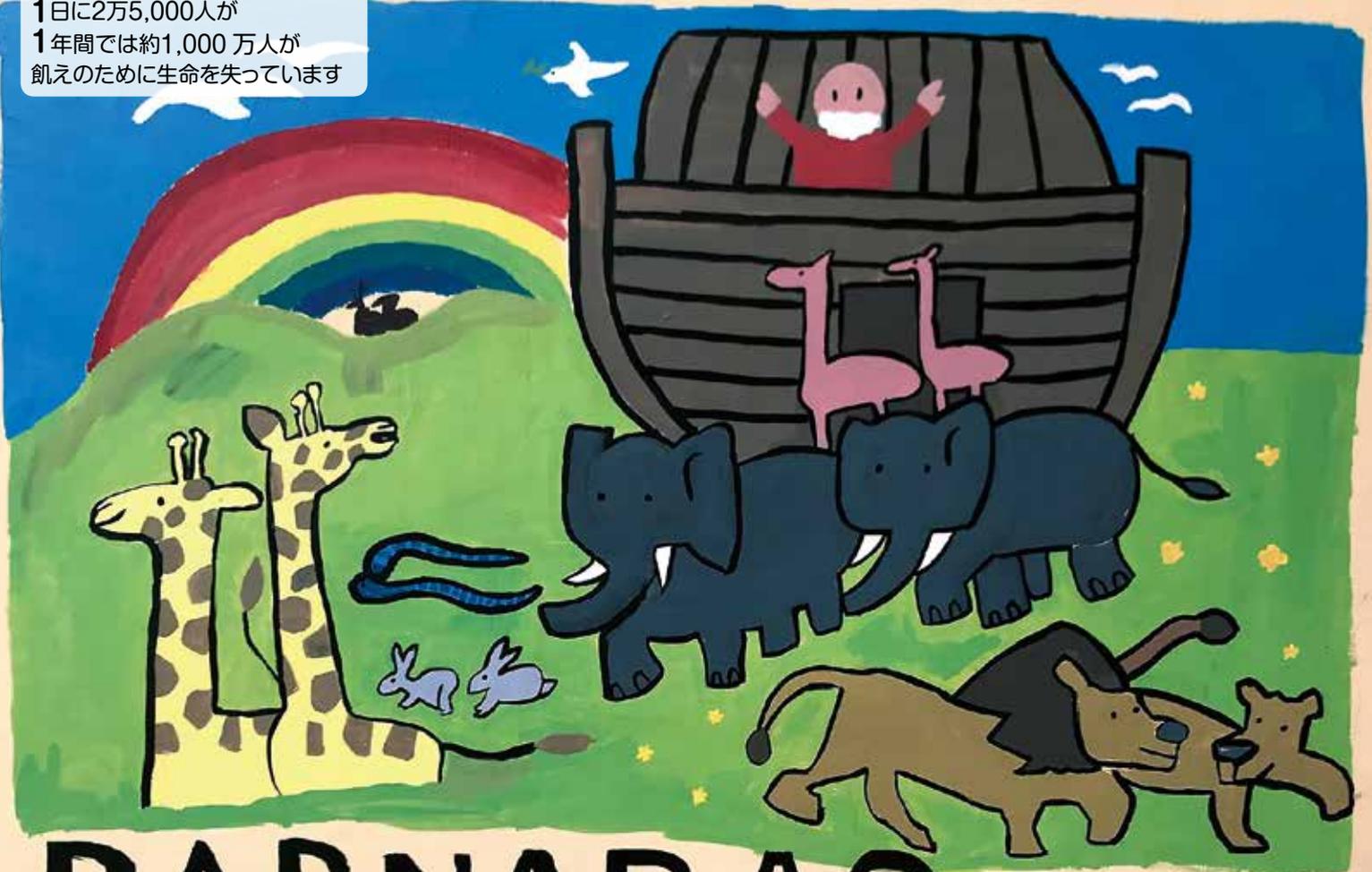


わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2019. No.348 7
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています



BARNABAS PROJECT

2019.3.27

Contents

2019世界食料デーのテーマ
ちきゅう大家族 ～75億人の食卓～
ハンガーゼロ活動報告
南スーダン・マブイスクール給食支援
チャイサポ・ハロハロ
東京で初開催



バルナバプロジェクト報告 P4-5

ハンガーゼロ Hunger Zero

の世界を目指して

8億2,100万人
-世界人口の9分の1以上-
に十分な食料が
ありません

1億5,000万人
の5歳未満の子ども
たちが十分な食事を
とることができず、
発育不良に陥って
います

出産年齢の女性の
3人に1人が
貧血を患っています

気候変動と極端な
気象は飢餓の
主な要因の一つです

ハンガーゼロ 理事長 清家弘久

昨年、「Hunger Zero ハンガーゼロ」と皆さんに呼んでいたように団体名の変更を行いました。しばらくは、皆様に名称変更の混乱でご迷惑をおかけするかもしれませんが、どうぞご理解いただき、新名称に慣れ親しんでいただきますように、よろしくお願いいたします。

私どもの願いは世界の飢餓をなくしたい、神様がお造りになったこの世界に、飢餓や貧困、戦争でなくなる方を一人でも減らしていきたいというものです。そのためにハンガーゼロ支援や子ども教育支援などで協力してくださる皆様に心から感謝を申し上げます。

昨年11月号の紙面でFH（国際飢餓対策機構）全体では、全世界で3,028のコミュニティに関わり、子どもの栄養改善は64万人以上に、さらに支援世帯数は約80万世帯であることを報告させていただきました。支援が及んでいないところは、まだまだたくさんありますが、このように多くの人々に関わらせていただいていることは感謝です。しかし、それだけではなく、昨年FHの支援から卒業したコミュニティが18あったことは本当に感謝です。支援を受ける人から自立し、他の人を助けるコミュニティになったことを意味します。

私たちが目指しているビジョン・オブ・コミュニティ

数年前、チャイルドスポンサーの方々と共にカンボジアを訪ねさせていただいた時、本当に嬉しい光景を見ました。村の何人かのリーダーが自分たちのプログラム（保健、教育、農業、小規模ビジネス）がどこまで進んでいるかをFHスタッフが行うのではなく、彼ら自身が説明していたのです。三つの川を渡ると、自分たちは外からの支援なしで村を運営していくことができるようになる、今は二つ目の川を渡ったところだ、と自信にみちた表情で語って



いたことがとても印象的でした。また、その集まりの中にポルポト時代の残党の娘さんがいましたが、彼女も村作りに参加していました。自分たちで協力し合いながら村作りをしていく、さらに敵対していた人と人の関係も修復されていく、これが私たちが目指しているビジョン・オブ・コミュニティ（VOC）だと確信させられたのです。

素晴らしいパートナーが全世界にいる

今年3月にアフリカのモザンビークとジンバブエにサイクロンが襲いかかり、2つの国で約1000名の方が犠牲になりました。多くの人々の家もなくなりましたが、モザンビークだけで3,344の学校が失われたのです。私たちの現地パートナーは、3,344分の1から始めていくから祈っていてくれと連絡をくれました。このような素晴らしいパートナーが日本に、全世界に、いることを誇りに思います。ハンガーゼロの世界を信じて、これからも応援をよろしくお願いいたします。

2019年7月
新年度を迎えて

10月16日は「世界食料デー」

2019年のテーマは

ちきゅう大家族

～75億人の食卓～

私たちは、同じ時、同じ空間を共に生きる「ちきゅう家族」です。

しかし1つ屋根の下に暮らしているながら、食を楽しむことができる人と、口にしない食べ物すらない人がいるのが現状です。日本の私たちは、世界各地からくる『さまざまな食』を享受しながら、一方で食料を大量に廃棄しています。「世界食料デー」を通して世界で起きていることを知って、私たちが現在生活している場所や環境をもう一度見つめなおし、『家族』として共に生きるために自分にできることは何かを考えて、行動する機会になるようにと願っています。

「わたしから始める、世界が変わる」を実践し、「ハンガーゼロ」の実現に向かって共に取り組んでいきましょう。



2019世界食料デー「1 食募金」の主な募金先

- ① コンゴ民主共和国：地域開発支援、地域リーダー育成
- ② フィリピン：地域開発支援、地域リーダー育成
- ③ ケニア：学校設備支援
- ④ インドネシア：栄養改善 等

2019
WFD
28 大会

WFD大会期間 9月-11月

インスタキャンペーンを始めました!

 **#ちきゅうFood**

国連SDGs  

Instagramで各国、各家庭で食べられている食事を紹介しています。同じ食材を使っても、国や地域によって料理はさまざま。それぞれの食卓に上がる料理を紹介しています。(5月16日～10月16日まで続きます)

聞いてみよう! #ちきゅう Food
Road to World Food Day

食を支える生産者との協力体制で

自給率 200%を誇る北海道。広い大地を生かして様々な食材が生産されています。そんな北海道での大会は、「食」を支える生産者さんとの協力が特徴です。会場では農産物や加工品、魚介類と幅広く販売されました。

今回は10月26日(土)に北星学園女子中学高等学校で開催。是非、みなさんお越しください。



プレイバック
2018
WFD

第1回 札幌大会

バービン小学校の図書館が完成!



バルナバプロジェクト



～フィリピン スラ村支援報告～



大阪シオン教会の「バルナバプロジェクト」は2013年の大型台風ヨランダ被災者支援から始まり、現在はフィリピンのビコール州スラ村を支援して下さっています。スラはマングローブの林で囲まれた陸の孤島で交通の便が悪く、十分な情報や教育に必要な書籍が不足しています。そこで同プロジェクトではバービン小学校の図書館建設費用を募金で応援。このほどFH フィリピンの協力によって図書館は完成、同プロジェクトのメンバーが祝いの式典に出席されました。

図書館の壁に「ノアの箱舟」を描く

青木俊介さん

今回のフィリピン訪問は3回目で、子どもたちの中に、僕のことを覚えていてくれた子がいたので、とても嬉しかったです。フィリピンで辛かったことは、スラで泊まったホテルのトイレが詰まっていたことです。このような経験は初めてでした。

今回は図書館に「ノアの箱舟」の絵を描きました。4時間かかりましたが、僕は塗っている人の椅子を支えることをメインにしていました。完成した時は、子どもたちや小学校の先生などが拍手をしてとても喜んでくれました。安達先生(ハンガーゼロ評議員/大阪シオン教会牧師)もおっしゃっていた通り、フィリピンの人や生徒は、台風の被害に遭っても、

クリスチャンであるからこそ希望をもって生活していることに感銘を受けました。自分もフィリピンの人たちのように、神様に信頼して歩いていこうと思いました。

子どもたちの勉強に対する熱意

辻本 恵さん

私は2回目だったのですが、見たもの体験したこと全てが新鮮で、日本と違うところを見つけることが楽しく、また、私が当たり前だと思っていることは日本の、私の周りだけの当たり前だということに改めて気づかされました。水道水が飲めなかったり、トイレは流せなかったり、時間を気にしなかったりと、フィリピンの当たり前を体験したときに、日本がいかに便利であるかを思いました。スラで特に印象に残っ





式典でのテープカット
(安達先生、FHスタッフ、校長先生)



メンバーで壁にペイントしました



ているのは、子どもたちの勉強に対する熱意です。子どもたちと理科の教科書を開いていた時、子どもたちは楽しそうに私に内容の説明をしてくれました。理科が好きなの?と聞くと、みんな口をそろえて Yes と答えました。

私は子どもたちの勉強に対する姿勢に驚きました。なぜなら私にとって教科書は学校の、あまり面白くない本で、英語を勉強するのは授業があるし英語を話せたら役に立つからであって、楽しんで勉強をしている訳ではなかったからです。私と子どもたちの勉強に対する姿勢とを比べてみたとき、私は恥ずかしくなりました。何不自由なく高校に通って勉強し、いつでも知りたいことを知ることができる環境が整っているのに、この環境を無駄にしている、またこれが当たり前ではないと気がついたのです。もしスラの子どもたちにこのような環境が整っていれば、私よりも熱心に勉強するだろうと思いました。そう思ったことが恥ずかしく、反省しました。そして、勉強ができて好きな本が読めることが当たり前でないことを忘れずに、これから勉強しようと思いました。今回のキャンプは、自分の当たり前の範囲がどれほど狭かったのかを知ることのできた、とても貴重な機会になりました。

英語が出来ると思っていたのに

黒木基哉さん

はじめてのキャンプだったのでいろいろ驚いたことがありました。日本では見ないものを見るたびにわくわくしました。フィリピンでは、水道水が飲めないことや、トイレトパー

パーを流すと詰まる、ということから自分はなんて良い環境にいるのかという感じました。子どもたちとの交流では、自分は得意教科が英語なので会話が出来ると思っていたのに、相手が言っていることが全く聞き取れなくて、とても焦りました。それでも子どもたちは積極的に話しかけてくれ、その温かさに感動しました。子どもたちの中にはスマホを持っている子もいますが、服はボロボロで靴も履いていない子もいました。それを見てこの旅行の自分の目的は、より多くの人に現状を知ってもらい、そのために出来る事をやらなければいけないことだと思いました。

子どもたちのたくましさに触れて

松田志緒里さん

私は初めての海外で、行く前は不安で一杯でした。でも行ってみたらすごく素敵な所でした。準備し、また祈ってくれた人たちと、現地の方々の温かさのおかげだと思います。飲み水やトイレなど水に関しての不便を多く感じましたが、現地の子たちは笑顔いっぱい、私の悩みがちっぽけに感じるくらいとてもたくましく強く生きていて凄いと感じました。今回、自分がどれだけ恵まれた環境にいるのかを感じることができました。私は自分のことだけでも精一杯なのに、外国の知らない地域の子どもたちのために、力を合わせて何かをしようとする人たちの思いに触れて、これから自分出来ることを精一杯やっていきたいと思うようになりました。





南スーダン共和国、西レイク州、ルンバックのマブイスクールで学ぶ445人の子どもたち(男子225名、女子220名)に学校給食が提供されています。現地からの最新レポートです。

給食提供により学習意欲や出席率が高まる

2016年の首都ジュバでの武力衝突以来、南スーダンの治安情勢は予断を許さない状態が続いていますが、比較的治安の安定している西レイク州ルンバックにあるマブイスクールでは、継続的な給食支援のおかげで子どもたちは勉強に集中することができ、中途退学することなくしっかりと学ぶことができています。月曜日から金曜日までの週5日、年間48週に亘って、1日1食の給食が提供されるため、保護者は、子どもたちが1日中お腹を空かせたままでいるという心配をしなくてよくなり、進んで学校に通わせるようになりました。特に女子生徒は、以前は中途退学させられてしまうリスクが高かったのですが、娘を学校に通わせることの意義を理解する保護者が増えてきました。ご飯が食べられて、教育が受けられ、友だちと楽しく学び、遊ぶことができる学校は、マブイスクールの子どもたちにとってとても嬉しい場所となっています。

学校給食に感謝しているのは生徒や保護者だけではありません。以前は空腹のため授業に集中できない子どもたちが多くて、先生たちは大変な思いをしていましたが、今では生徒たちの集中力も学習意欲も高く授業を進めやすくなっています。学校を休む子どもの数は劇的に減り、出席率はいつも高い状態を保っています。

自分たちで学校給食を担う試みも

2022年には支援から卒業し、自分たちで学校給食を担っていくという目標に向かって、マブイスクールでは新たな試みが始まりました。生徒と教師が農業トレーニングを受け、給食に用いるための野菜を自分たちで育て始めました。

保護者をはじめとする地元の大人たちの学校関連の活動への関心は高く、給食の調理をしたり、生徒たちが野菜を育てるのを手伝ったりして、引き続き積極的に活動を支援しています。地域の協力教会も給食の調理ボランティアやボランティア教師を送ってくれています。

このように、マブイスクールの学校給食は、間接的に2,500人以上の地域の人々に何らかの形で良い影響を与えています。支援からの卒業に向けたリーダーシップを取っていくために結成された組織 CHEEM は、ハンガーゼロの現地パートナーであるライフ・イン・アバンドランスからキャパシティビルディング(能力向上)のトレーニングを受けながら、その準備を進めています。

部族間衝突や略奪など治安の不安要素は依然としてありますが、頑張っている村のリーダーや保護者たち、国の未来と自分や家族の将来のため、勉強に励んでいるマブイスクールの子どもの応援を引き続きお願いします。

マブイスクールの支援方法

- ①ハンガーゼロサポーターになる(最終ページにご案内)
 - ②Tポイント募金に保有しているTポイントで協力する
 - ③テーブルクロス of グルメアプリ利用で協力する
- ※②③はマブイ学校指定としてハンガーゼロに募金されます



スマートフォン
やPCを使って
専用サイトから
ご利用下さい



2011年にスーダンから独立
人口:1,258万人(2017年)
首都:ジュバ
言語:英語(公用語)、他部族語
識字率:32%

出典=外務省基礎データ




 チャイルド
CS サポーターさんの楽しい交流広場
東京で初開催、ウガンダツアー参加者の報告も


6月8日(土)、浜田山キリスト教会(東京都杉並区)をお借りして、チャイサポハロハロが東京で開催されました。

今回は、2月に「ナイト de ライトと行くウガンダスタディツアー」に参加して下さったシンガーソングライターの横山大輔さん、和子さんご夫妻をゲストにお迎えして、ウガンダ報告会の時間を持ちました。

ミニコンサートや、同じくツアーに参加した大学生2人のフリートーク、またハンガーゼロスタッフによるチャイルドサポーターについての報告もありました。

ウガンダのチャイルドサポーターさんが9人参加して下さり、サポーターさん同士、またスタッフも共に顔を合わせて有意義な時間を過ごすことができました。

なお沖縄では4月に続いて6月28・30日に2会場で開催。また東京でも8月18日午後4時半から「キリスト教朝顔教会」で開催することになりました。

ハンガーゼロの啓発事業部では今後も、チャイルドサポーターさんや支援グループ、団体(学校・企業も含む)のご協力をいただき、この交流会を全国各地で開催していきたいと願っています。まずはご参加ください。

●お問い合わせは東京事務所 ☎ 03-3518-0781 まで。



“チャイサポ”とはチャイルドサポートの略で、“ハロハロ”とはタガログ語の「ませこぜ」という意味です。「支援する側、される側」という関係ではなく、皆が一つとなって共に生きてゆこう!との思いが込められたネーミングです。

Hunger Zero

**学校に、企業に、キリスト教会に…全国に107台
ハンガーゼロ自販機支援の輪が広がっています!**

皆さまのご協力をいただき、2019年に入って6月までに、大阪、京都、奈良、愛知に9台が設置されました。6月末には、九州第1号機が鹿児島に設置される予定です。ハンガーゼロ自販機でドリンク1本を買うと10円が寄付となり、3本でアフリカの子どもの給食1食分の支援になります。身近な社会貢献、国際協力の機会に、是非ご参加ください。

(お問合せは、大阪事務所 TEL:072-920-2225 碓井まで)

ハンガーゼロ自販機からのご支援は

12,752,048円

約425,068食の給食を支援しました。

(2012年からの支援実績)



新デザインにはCSのロゴも

●2019年の設置先

大阪:八尾トヨー住器(株)、曾根自動車
越井木材工業(株)、(株)コシプレザービング

京都:長岡福音自由教会

奈良:香芝ゴスペルチャーチ

愛知:グレイスゲートチャーチ、国際クリスチャンバイブルチャーチ

●2019年6月設置予定

デブ聖書バプテスト教会(鹿児島)、沖縄ゴスペルファミリーチャーチ



香芝ゴスペルチャーチは6月12日に設置ハンガーゼロ(写真左)も立会いました



グレイスゲートチャーチ



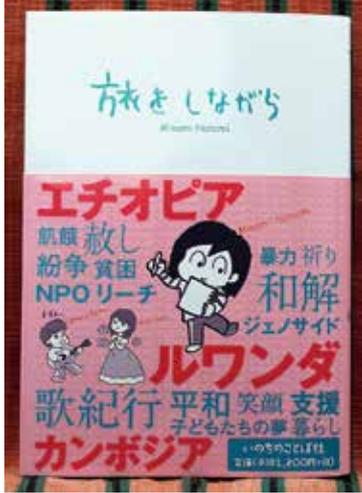
長岡福音自由教会



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

エチオピアとルワンダの
旅のイラスト・ルポ

書籍「旅をしながら」



おなじみ、みなみ ななみさんのイラストがいっぱいの、大人も子どもも読みやすい本です。「夏休みの課題図書」としても最適です。

著者：みなみ ななみ
発行所：いのちのことは社
四六版(130mm×185mm)
192頁/ソフトカバー
初版2012年5月1日発行
ISBN 978-4-264-02974
定価：1,200円を税・送料込
1,500円でお届けします。

お支払い：後払い
【お申し込み先】
(株)キングダムビジネス
社名をネットで検索するかスマホで下のQRコードでサイトに入れます。
電話：06-6755-4877
FAX：06-6755-4888
でも承ります。



書き損じ「はがき」で
国際協力!

「年賀状」の書き損じたものやポストに未投函のもの(通常はがきや古い年賀状でもOK。但し書き込み、汚れは不可)がありましたら、大阪事務所までお送りください。切手に交換してハンガーゼロの活動に使わせていただきます。未使用の記念切手も大歓迎です。

ご家庭で使用済みの
歯ブラシ回収で募金

ライオン株式会社と協働するテラサイクルジャパンと提携し、使わなくなった歯ブラシを募金に変えることができます。学校や企業の募金活動の一貫で取り組んでくださっているところもあります。詳しくは東京事務所へ。



※チラシのPDFデータを提供できます

2019夏の海外ツアーはありません

次回開催は2020年3月上旬に「バングラデシュスタディツアー」を実施する予定です。

メールマガジン配信中



ハンガーゼロではウェブサイトから募金をして下さった方や希望される方に月1回メールマガジンを配信中です。現在1884人がメルマガ登録をされており、ハンガーゼロニュース記事やチャイルドサポーターからのお知らせ、イベント情報などを配信しています。緊急支援活動等の際には、臨時号を配信することもあります。配信を希望される方は、ホームページからアクセスして登録をお願いします。

<https://www.jifh.org/mail/>

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	フリガナ	
(TEL)		
住所	〒	
申込日	年 月 日	NL 348号
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください	
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □(1000円) ②一時募金として 円協力します。	
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □(500円)	
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。	
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落し申込書を送って下さい。	
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。	

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在...4594口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東京(広島) 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾンク米202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに692053ポイント(円)のご協力(8179件)がありました。Tポイント募金で検索。
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。